

特集

ちゃんと効く，発問

「発問」づくりのキモ 藤江康彦

実践的思考力を育成するための発問 池西静江

教材からデザインした発問の実践例

池西静江・石東佳子・阿形奈津子

学生の思考を促す発問のために必要なこと 安酸史子

階段をかける発問について 三浦友理子

【新連載】

リズムとからだ 「うまくいく」と「うまくいかない」の謎・1

伊藤亜紗

すべて、転んで、立ち上がるために 看護職生涯発達学から・1

佐藤紀子

看護教育，継往開来！・1 江藤裕之・林千冬

【連載】

優れた“わざ”をどう伝えるか——

技術の「背後にある意味」を教える・4 川嶋みどり

「配慮が必要な学生」の学びにつなげる対応——臨地実習における

教育上の調整を考える・4 小川純子

学生なら誰でも知っている看護コトバのダイバーシティ・4

木村映里

東西南北！ 学生募集旅日誌・10 高塚由香里

編集後記

●20年近く前、街や電車内でキスを
するカップルがやたらに溢れたことがあり
ました。このとき、「日本人も欧米人の
ように自然にボディタッチする文化が
育った」ともっともらしく言う人がけっ
こういました。けれども、20年後のい
ま、確かに以前よりは友達同士でハグし
たりすることは増えたかもしれませんが
が、親子兄弟でキスし合う場面などはほ
んど見かけません。しよせんはテレビ
のバラエティに煽られただけのブーム
で、文化でもなんでもなかったというこ
とです。●ことほどさように、この国で
はいつも、日常的な身体接触は「特別」な
ものです。が、看護場面ではそうではあ
りません。そのギャップを埋めるのには、
基礎教育の段階から積極的に身体接触を
経験していく必要があると思われます。
性的マイノリティの存在も意識しながら、
機会を増やしていただきたいと思います。
……大野

●愛はきつと奪うでも与えるでもなくて
気がつけばそこにある物、と歌ったのは
ミスターチルドレン(もう20年前です
ね。多くの学生さんはきつと知らないの
でしょう)ですが、腹回りの贅肉もまた、
気がつけばそこにある物のリストに加え
てもいいと思っています。先月号に続い
て、自分の腹の話で恐縮です。先日、ある
女性タレントが太った女性芸人のこと
を「人間ではない」と発言したようです。
文明人ならばすべからず、腹の肉は「努
力で何とかせねばならない」のでしょ
うか。●ことほどさように、現代人はホモ・
ディアエタ(痩せる人)なのかもしれませ
ん。世界にダイエットという価値をつ
くった国、アメリカの変遷を心配しつ
つ。
……番匠

◎編集室ツイッター

<http://twitter.com/KANGOKYOIKU>

看護教育 第58巻 第3号 2017年3月25日発行(毎月1回25日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2017, Printed in Japan

(1部) 定価：本体1,500円＋税

2017年・年間購読料(増大号を含む12冊)：冊子版15,540円、冊子＋電子版／個人18,540円、電子版／個人15,540円(いずれも＋税、送料弊社負担)

発行：株式会社医学書院 代表者：金原 優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 販売部 TEL：03-3817-5659

『看護教育』編集室 TEL：03-3817-5776 メールアドレス：kankyou@igaku-shoin.co.jp 担当：番匠・大野・早田

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

本誌を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

【JCOPY】〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969、FAX03-3513-6979、info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。0047-1895/17/紙：¥500/電子：¥750/論文/JCOPYが本誌の頁表記に並んで記されているのは、1論文1回複製につき紙は500円、電子版は750円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCOPY宛にご連絡いただく際には、筆頭著者名と併せて本表示をご提供くださるようお願いいたします。

『看護教育』は、株式会社医学書院の登録商標です。

Vol.58 No.2

2017 年 2 月
特集

キャリアを支援する 赤十字看護専門学校教員ラダー

病院などで、看護実践能力や管理能力のラダー、コンピテンシーの明示が広がりつつある一方で、教員の教育実践能力を評価し、成長段階でとらえようとする教育機関はほとんどありません。確かに、教育能力を正確に計る、ということは実現が難しいですが、参考となるラダーやコンピテンシーがあれば、自身の教育実践能力を客観的にとらえられ、また他者から教育実践能力を評価され、ポジティブなフィードバックを受けることで、キャリアアップにつながる事が期待できます。

日本赤十字社が非常に考えられて構築した「看護教員のキャリア開発ラダー」は、すでに導入から3年がたち、所属する多くの教員が認定を受けており、組織全体の取り組みとして、すべてのレベルでも認定が進んでいます。また、より良いラダーのための見直しもを行っています。

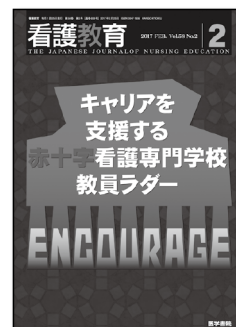
今特集では、看護教員ラダーの概要を改めてご紹介するとともに、認定を受けられること、また評価をすることが、ご自身の教員としてのキャリアにどのような影響があったのか、ご体験から語っていただきました。

多くの教育機関で、継続研修の指標に、また教員のキャリア支援の一環として、ラダーの設定が教員たちにどのような影響を与えるか、今特集がご参考になることを願っています。

■看護教員ラダー導入3年目の成果と今後の課題 小越佐知子

■認定を受けた立場から 歩みを振り返り、成長につなげる
レベルⅠ 日々の積み重ねとしてのラダー 岩村直美
レベルⅡ 自分と向き合い、課題を見出していく 藤元由起子
レベルⅢ「創造」としてのラダー 認定 箕口ゆう子
レベルⅣ 副学校長としての自信を深める 柳めぐみ

■評価をしてきた立場から 仲間たちを認め、自らも学ぶ機会に
レベルⅠ・Ⅱ 評価者として「評価会」を中心に 満間信江
レベルⅡ・Ⅲ 評価者として 成長につながるポジティブフィードバック 高岸壽美
レベルⅣ 評価者として 質的なリフレクションを導くナラティブ評価 小松智子



Vol.58 No.1

2017 年 1 月
特集

教える力を養うための継続研修を

教員は、研究も行いますが、本来は文字通り「教える」人です。ですので、すべての教員にとって、教育力UPは至上の命題と言えます。しかし、看護教員が、教育に携わる前に「正式」に教育を学ぶ機会、専門学校教員を対象にした教員養成講習会を除けばほとんどありませんし、大学教員に至っては、他学部の教員同様、教育を学ぶ機会がないまま授業に臨まねばなりません。大学ではFDが義務づけられたものの、一般大学においてですら、その中身の多くが講演会やシンポジウムで、具体的な教育技法や授業検討への取り組みは少数派のようですから、看護教育においてもそう変わりはないでしょう。

ほとんどの看護教員は、学生を思い、上手に授業を行いたい、効果的に教育したい、と考えているはずですが、個人、個人の研鑽はもちろんです。組織として教育を学ぶ機会を提供することこそが、いま必要なのではないでしょうか。

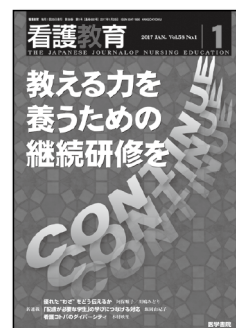
今回は、看護教員の教育力UPのために必要な継続教育の内容を再考し、学校単位、地域や自治体単位などで継続して教育力UPの機会を設けることによって、全体の底上げを図る方法を模索します。経験則よりもエビデンスを重視した看護が求められるようになって久しいですが、教育こそ「経験則だけで教えられる」という思い込みから脱却する必要があるはず。継続研修で教える力を養う機会を増やしていただきたいと思います。

■FDを教育力UPのための継続教育の視点でとらえる 近藤麻理

■看護教員養成において足りないものを補うには 新保幸洋

■専任教員養成講習会受講後に一教育力を高めるために必要な学校管理者の役割 江川万千代

■【鼎談】教育力UPのための効果的な継続教育を求めて 杉原多可子／鳥井元純子／佐藤浩章



【2016年12月号(Vol.57 No.12)】

身体知をリベラルアーツに

【2016年11月号(Vol.57 No.11)】

使える「患者役」になろう！

【2016年10月号(Vol.57 No.10)】

「病態関連図」を
おもしろく！

【2016年9月号(Vol.57 No.9)】

さあ、臨床判断モデル

【2016年8月号(Vol.57 No.8)】

論理的に書こう！

【2016年7月号(Vol.57 No.7)】

論理的に話そう！

バックナンバーのご注文・在庫照会について

- 2015 年 1 月号 (Vol. 56, No. 1) 以前の号は、東亜ブック (TEL.03-5947-4781, FAX 03-3923-4539, <http://www.toabook.com/>)
- 2015 年 2 月号 (Vol. 56, No. 2) 以降の号は、医学書院販売部 (TEL.03-3817-5659) にお願います。